

- (1) 単元名：もっと「学び」をいかそう。「よみ取る算数(1)」
- (2) 単元の目標：資料から必要な情報を選択し、問題を解決することができる。
- (3) 本時の目標：必要な情報を選択し、問題を解決することができる。

国頭地区算数数学ブロック研究会主催の授業研究会である。玉城先生には、4月から辺土名小学校において、すでに3回ほど授業を参観させてもらっている。5月24日の佐藤学先生と斉藤先生の学校訪問の際には、両先生がびっくりするほどの「学び合う授業」を拝見し感嘆な声をあげさせていた。

本日は地区のブロック研究会の先生方と、辺土名小の同僚の先生方が参観に来てくれました。



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【ぜひ見てほしい】 辺土名小少人数指導教室「マナビー教室」である。 圧巻。素晴らしいの一言！



【教室後ろ壁面全般】



【子ども達の学習の跡】



【学びの作法・ルール】

何度か参観したE先生の創る「マナビー教室」である。ぜひ紹介したいと前々から私の中でくすぶり続けていた教室経営である。「子ども達が大事にされている。」「授業が大切にされている。」が一目瞭然である。

深い思考は整然とした環境でしか生まれえないし、期待できない。この教室に入ったらどの子も学習することが必然的になるだろう。まさに学習意欲も喚起する「学び」の教室である。これ以外にも学習内容の定義など写真では紹介できないほどの、授業づくりのための教師の配慮がいっぱい詰まった教室である。ぜひ模倣してほしい。

【静かに淡々と授業開始】



写真①



ワークシートを配布しながら子どもの様子を伺う。



一人一人に資料が準備されていた

写真①、テキストを拡大し黒板掲示。ワークシートを配布し「さあがんばってみようか」いきなり課題がおろされる。一人一人に準備された資料を基にみんな考える。しばらくの沈黙、テキストとの対話が深まる。「分からないことは友達に訊いてね」教師の一声で「学び」が加速する。写真②、最初の課題を共有する。子ども達が自分の考えや「気づきを」語る。「だから～」「だって～」「なるほど」「あは～」教師の巧みな話術で子どもの思いや、考えが言葉に引き出される。

教室の環境や、教具の準備、教師の振る舞いから、教師の授業への熱意を感じる。教師が「授業で勝負している。」素晴らしいの一言です



写真②



【ジャンプ課題がおろされた】



写真③



写真④

ジャンプ課題がおろされた。まずはしっかり読み合う。写真③のグループは、一枚のワークシートをグループ中央に置きみんなで読み合っている。問題把握の「学び合い」である。「どういう意味?」「何を求めたらいいの?」「たぶん…」短い対話の中にも、子ども達の考えるが深まる。ジャンプ課題は簡単ではない、みんなで学び合う必然がうまれてくる。写真④みんなでとりあえず問題を確認したら各々で解決に取りかかる。進めながらも躓いたら「訊き合う」が交わされる。・・・さて、みんなで「話し合う」が先か?とりあえず「自分でやってみる」が先か?…定式はないが結論である。まず、課題のレベル、グループの中間のレベルによって「学び合う」準備の状況はいつでも一様ではない。「訊く必要があれば訊く」「話し合う必要があれば話し合う」「聴かれたら寄り添う」いつ、どのように「学び合う」かは状況の中で発生するので定式化されない(されにくい)。授業は教師のプランよりも、子ども達の状況による「デザインする」を心がけたい。学び合う教室は、子ども達が、子どもたちなりに創り出していく授業である。一人残らずすべての子どもが「安心」して授業参加できることを準備するのが教師の「学び」のファシリテータとしての役割となる。

◎ 授業はプランよりもデザイン ◎ 「学び合う」授業において、教師はファシリテータの役を担う。

(◎は佐藤学)

【教材研究と教具の準備】 学びを深める、共有する。

テキストの拡大版を黒板に掲示する効用は何?

授業者は本日の授業でも 2 度子ども達を教室中央の間に集め、共有を図った。

そして、子ども達の考えや疑問を拡大テキストに記していった。授業者によって「どこから」「なぜ」と聴かれ、一人ひとりの子ども達の考えが全員で共有できることになる。



【教師の位置(ポジショニング)】 目線を同じにする

学び合いが滞るグループに授業者がケアに入る。

ケアは課題解決のために、ヒントや考え方の示唆を与える行為ではない。「学び合い」が滞るグループや個人を仲間とつなげたり、グループとグループをつなげたりする行為である。

右の写真の教師の目線の高さに注目してほしい。安心してゆっくり話せる位置!



写真⑤



写真⑥

【ジャンプ課題の共有で】

写真⑤、ジャンプ課題が出来上がった子ども達が、各々ホワイトボードに自分の解答を記していく。大切なことは、グループで話し合っただけでなく、「学び合った末」のぼくかなりの考えであることが大切である。

写真⑥、私の考えを発表する。伝える。教室の仲間たちは「分かるうとして聴く」!

E先生ありがとうございました。

地区ブロック研の授業も大変ですね。何度か先生の授業を拝見させていただいてますが、授業に対する先生の姿勢には一人の教師としてのポリシーまでひしひしと伝わってきます。授業公開に感謝します。

左の写真、共有に出されたホワイトボードです。「みんなちがうからみんないい」表現の仕方が違うから「学ぶ価値」がある。

国頭学びの会ゆい

